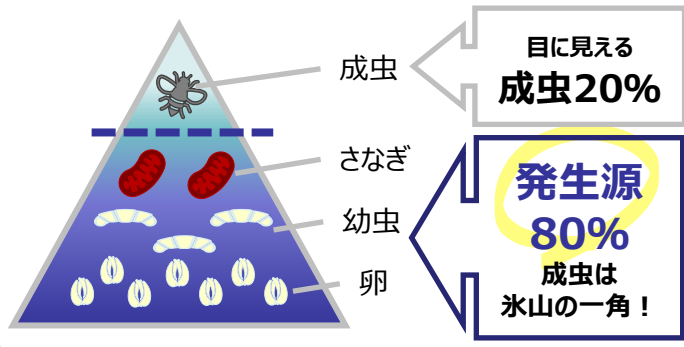


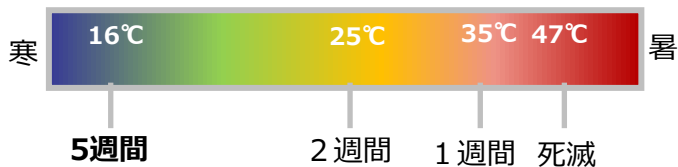
伝染病予防は気温の低い春先から始めましょう！

気温が上がっていくと、ハエの数は爆発的に増加します・・・

成虫がいる = 幼虫はもっと潜んでいる



温度とサシバエが卵から成虫になるまでの
発育日数の関係



気温が低い時期は発育速度が遅い！
幼虫対策をすれば、殺虫剤を撒く回数も減少！

1. 幼虫対策は、堆肥等の管理とIGR剤の散布！



堆肥の切り返しは
隅々まで！

牛舎隅など牛が踏まない・糞の取り残しがある場所、
カーペンなど子牛のいる牛床にIGR剤を散布！

つなぎ牛舎は
バンクリーナーへ散布！

2. 成虫対策は、防虫ネットや殺虫剤ローテーションで！



地面や床から2 mは防虫ネットで
覆うようにしましょう！
隙間や穴がないか確認を！

殺虫剤は
サシバエが飛ぶより
上を狙って噴霧！

殺虫剤はローテーションを！
噴霧量が十分か確認！

写真協力：鹿児島県内酪農家、(独)家畜改良センター宮崎牧場、住化エンバイロメンタルサイエンス株式会社、エランコジャパン株式会社

3. 対策は地域ぐるみで！ 関係業者もご一緒に！

サシバエ対策、ここをチェック！

1 堆肥・敷料・残餌はしっかり管理できている！

- ・切り返し等により堆肥発酵時の中心温度が65度になることを確認
- ・牛床は清潔に保たれ、汚れた敷料や残餌は片付いている

いいえ

IGR剤を撒き、幼虫対策をしている！

- ・バンスクレーパーが通る前にバークリーナーに散布
- ・牛の踏まない所を中心に散布（特に牛舎隅など）

いいえ

サシバエ幼虫は、堆肥等の管理 + IGR剤で限りなく減らそう

サシバエの成虫 1 匹は、生涯600個もの卵を産みます。成虫 1 匹は来シーズンの 1 万匹に相当すると言われるほど、早期の対策が重要。

サシバエの活動が低下している時こそ、地域ぐるみで幼虫対策をしましょう！

2 牛舎内でハエ成虫をほぼ見ない

いいえ

サシバエ成虫を、牛舎内で見かけたら、対策徹底！

サシバエは農場内でも発生し、他所からも飛んだり運ばれたりしてやってきます。地域ぐるみでの対策が重要。サシバエの持ち出しや持ち込みがないよう農場出入り業者にも車内の殺虫をお願いしましょう。

◆対策ポイント◆

1. 殺虫剤はローテーション

同じ殺虫剤を連用していると、生き延びたサシバエが耐性を持つことがあります。殺虫剤が効きにくくなる前に、系統が異なる殺虫剤とローテーションで回していきましょう。十分な濃度・噴霧量で散布しているかも要チェック。

2. 防虫ネットの設置

地面から2mの高さまで床から天井に向けて設置。穴が開いてないか定期的にチェック。

3. 下草刈り・防草シートの設置

サシバエが日中休息する牛舎周辺の下草を刈りましょう。防草シート設置も効果的。

すばらしい！

はい

その調子！

はい



子孫残すやい...

みんなのお手本！

はい



ゴコハ 住対イ〜



青森県下北農林水産事務所 むつ家畜保健衛生所

〒035-0072 むつ市金谷二丁目18-25

電話：0175-22-1254(平日) 090-5841-6810(休日・夜間)